

環境制御システムを利用したカーネーション栽培

大阪府立園芸高等学校
フラワーファクトリ科 草花A班

1、目的

令和4年3月末、本校に環境制御型プラスチックハウスが設置された。令和5年7月より本施設においてカーネーションの栽培を始め、今回が2度目の栽培である。そのため今回は前回とは異なる品種の栽培を通して、前回検証を行った摘心位置の違いにより収穫本数が異なるのかを再検討を行いたい。また収穫後のカーネーションを使ったアレンジメントへの利用方法の検証や、収穫物の適切な前処理方法の検証、本施設における生産コストについても検証したい。

2、栽培管理について（一部抜粋）

- 7月31日 苗の定植（スタンダード系3品種を100本ずつ定植） …写真1
- 8月25日 摘心 各品種につき5節、6節、7節位置での摘心区画を作る …写真2
- 12月4日 加温開始
- 12月27日 収穫開始
- 1月14日 カーネーションを利用した作品制作 …写真3

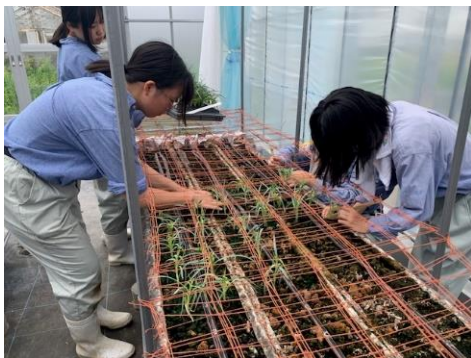


写真1



写真2



写真3

3、結果および考察

令和5年7月から栽培を始め同12月から定期的に収穫ができています。収穫本数は令和6年1月末時点でA品種28本、B品種64本、C品種41本で前回と比べても大差なく栽培することができています。また収穫物の草丈に関しては全品種、全区画とも平均して60cm以上あり、また品質に関しても湾曲せずに茎がまっすぐに伸びていることから、市場に出回っているものに遜色なく栽培することができています。また前回の結果ではスタンダード系品種に関しては7節で摘心したものが5節、6節のものとは一番収穫本数が多くなるのが分かったが、今回も昨年度とは異なる品種ではあるが3品種全てにおいて同様の結果が得られている。6月まで収穫調査を行い、実際にこのような結果になるのか検証したい。

栽培物の利用に関しては1月に行われたフラワーアレンジメントのコンテストで収穫したカーネーションを利用した作品制作をすることができた。今後3月以降はフラワー装飾技能検定の練習など多くの場面で利用できるように検討したい。

なお前処理方法の検証、生産コストの検証に関しては今後行う予定である。